

注意報 注意報

20 高虫防第 109 号
平成 21 年 3 月 5 日

関係機関長 様

高知県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報について

病虫害発生予察注意報第 4 号を送付します。

平成 20 年度病虫害発生予察注意報第 4 号

平成 21 年 3 月 5 日
高知県病虫害防除所

病虫害名 つる枯病 (*Didymella bryoniae*)

1. 対象作物 促成キュウリ
2. 発生地域 県内全域
3. 発生時期 12 月以降
4. 発生程度 多

5. 注意報発令の根拠

- 1) 2 月までに行った現地ほ場における促成キュウリの病虫害発生予察巡回調査では、県内全域において、つる枯病の発生面積率、発病株率とも平年に比べかなり高い。また、発生が多かった昨年と比較しても、県内平均値で上まわっており、県内全域でつる枯病の病勢は進展傾向にある(第 1 表)。
- 2) 今後 1 ヶ月の長期予報(平成 21 年 2 月 27 日、高松地方气象台発表)では、平年に比べ降水量は多く、日照時間は少なく、気温が高いと予想されており(第 2 表)、今後もつる枯病の病勢の進展に好適な気象条件が続くと予想される。

6. 防除対策

- 1) つる枯病菌の発育適温は 20 ~ 24 であるが、発病温域はかなり広く、やや高温側での発生が目立つ。多湿環境下で発生しやすく、灌水時の水のはね上がりによって最初の伝染が起こることが多い。その後のまん延にも水滴の役割が大きいことから、水滴の落下を防いだり、もみ殻などではね上りを防ぐ。
- 2) 病勢の進展が緩慢で罹病部が目立ちにくく、地際部などでは気づいたときには手遅れの状態になっているので、防除は予防に重点をおき、薬剤散布は地際部や下位の葉柄あるいは幼果や蕾に対しても丁寧に行う。なお、茎の発病初期に罹病部を丁寧に削り取ってトップジン M ペーストを塗布しておくこと治療に有効である。
- 3) できるだけ地際部への灌水を避けるとともに、ハウス内が多湿にならないように水管理や換気に留意する。また、多肥などによる過繁茂や生育障害、成り疲れによる株の衰弱は発病を助長する要因となるので、適正な管理により草勢の維持を図る。

第1表 高知県内における促成キュウリつる枯病の発生面積率の推移(%)

		12月	1月	2月	3月	4月
中央部	本年	11.1(0.3)	11.1(0.4)	37.5(1.6)		
	昨年	0(0.0)	0(0.0)	1.0(0.1)	12.5(0.2)	25.0(0.4)
	平年	0(0.0)	9.7(0.1)			
中西部	本年	0(0.0)	16.7(0.7)	16.7(0.7)		
	昨年	11.0(0.2)	44.3(3.8)	44.3(0.8)	44.3(1.6)	60.0(5.2)
	平年	3.6(0.1)	7.7(0.5)	10.0(0.2)	7.3(0.2)	9.0(0.6)
西部	本年	40.0(0.8)	40.0(1.0)	50.0(2.0)		
	昨年	0(0.0)	40.0(0.6)	80.0(2.2)	87.7(4.3)	87.7(9.0)
	平年	0(0.0)	8.6(0.1)	13.2(0.4)	15.5(0.6)	15.9(1.1)
県内平均	本年	13.1(0.3)	16.3(0.5)	35.3(0.9)		
	昨年	2.1(0.0)	14.4(0.8)	20.7(0.5)	29.5(1.1)	40.8(2.6)
	平年	0.7(0.0)	9.2(0.2)	10.3(0.2)	10.7(0.2)	12.1(0.3)

注) 平年:過去10年間(平成10年~平成19年)の平均値

()内は発病株率

第2表 1ヶ月の気象予報(2月28日から3月27日までの天候見通し)

要素	地域	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温		10%	20%	70%
降水量	四国地方	20%	30%	50%
日照時間		50%	30%	20%

注)平成21年2月27日に高松气象台より発表